

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0691900013		
法人名	特定非営利活動法人 あすなるの会		
事業所名	グループホームあすなる南陽		
所在地	山形県南陽市宮内2767-15		
自己評価作成日	平成 23 年 8 月 22 日	開設年月日	平成 18年 12 月 11 日

事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19番6号-2F		
訪問調査日	平成23年9月13日	評価結果決定日	平成23年 10月17日

(ユニット名 西通り)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新しく法人理念ができた事で、改めて利用者目線で対応できるよう今年度より積極的に取り組んでいる。法人全体で4つの委員会を立ち上げ、研修・環境・地域交流・災害を深く掘り下げ、工夫しながら取り組んでいる。ミュージック・ケアは、定番になり月3回のペースで行い、職員同士の協力体制に役立ったり、入所者の情緒の安定と機能訓練に役立っている。今年度は、特に介護マナーについて深く学んでいきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念が作られ、職員の意識も変わって積極的に事業所の課題に取り組んでいる。家族会との交流もあり、事業所の質の向上を共有している。職員がいきいきしている。入居者同士の関係も食事の時テレビを観ている時に助け合っていると感じる事業所である。職員の質の向上の為に研修委員会に期待したい。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あすなるの会の法人理念を作成し、朝礼・ミーティングで唱和し、共有している。その内容を各自落とし込み実践に向けた取り組みをしている。	NPO法人あすなる会の理念が出来たので、ミーティング、朝礼で唱和し職員に周知している。事業所の理念は法人理念が周知されてから、話し合いをしながら見直しをする予定である。	事業所の理念が管理者、職員で話し合い、具体的なケアになるようにする。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに参加させてもらい、おみこしを施設前を通ってもらい楽しんでいる。又、地域のボランティアの受け入れにより、地元の方との交流に努めている。又、今年度より地域交流委員会を立ち上げ、地域の方々が参加できる様、積極的に取り組んでいる。	法人で研修、環境、地域交流、災害委員会ができ、各事業所から担当者が集まり、地域密着の強化を計画している。年2回の老人会との茶話会、入所者の友人がお茶飲みにきたり、行ったりしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議にて状況報告書等を通じて認知症について理解していただくように努めている。今後地域交流委員会を通して少しでも多くの方に活かせるよう努めていきたい。			
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の推進会議にて、お祭りや行事について、メンバーよりコメントを頂いたりして、よりよい環境づくりを目指している。	市役所の係長、民生委員、家族、ケアマネジャー等の参加で事業所の状況の報告やお祭り、行事等の様子を話し合っている。日常生活の課題等、意見や事業所のモニターになって頂く事の検討が望まれる。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課の係長が、推進委員のメンバーなので、アドバイスや意見を頂いている。窓口に出向いたり、問題が生じた時は、電話やメールで相談している。	毎回運営推進会議に参加している係長は事業所の状況をよく理解しているので心良く相談に乗ってくれる。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関は極力かぎをかけないようにしている。転倒の危険がある方に対しては、夜間のみ、必要時ベットの柵を2本入り口側にさせてもらっているが、家族の同意を得ている。基本的には、利用者へ寄り添い、拘束無く生活できる様努めている。	夜間のベットの柵の使用は家族に同意を得ている。又外出して、近所の家に行って電話を掛けていただいたり、送って頂いたりしたと地域の協力がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	具体的に研修は実施していないが、虐待に近い行為があったので、職員間で共有し、事故防止に努めた。又、言葉使いや、関わり方でクレームがあったので、現在改善に向けて努力している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援に向け、個々のかかわりを大切にしている。成年後見人制度については今年度具体的な研修はしていないが、スタッフの中で、外部研修で受けた者がいるので、みんなで共有していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	最初の実態調査のときに、本人・家族の意向をお聞きし、GHの特徴を含め十分な説明をしている。不安の無いよう納得して入所できる様配慮している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意向を確認できる様努めている。又、家族会で出された意見の把握と法人からアンケートを依頼し、問題点を把握し、改善に努めている。	法人で家族にアンケートをしたら、課題、問題点(職員、ケア等)が見えてきて、改善の課題が見えてきた。又家族会での、意見も改善の参考になっている。	
11		運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GHでは、ミーティングで把握し、反映させている。法人全体としては、週1回の会議で、細かい問題点の改善に努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として毎日メールで全体を把握しており、必要時直接訪問してもらっている。意見を反映できる様提案している。		
13	(7)	職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が、一人ひとり向上できる様に内部研修の充実に努めている。又、GH協の研修会にも積極的に参加し、全体の底上げに努力している。	年4回内部研修に参加、外部研修、交換実習にも参加して、ケアの質の向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県グループホーム協議会の研修や置賜ブロック会の研修等で交流を深めている。	県のグループホーム協議会に入会して、研修に参加して交流している。またスクラム研修にも参加して、ケアの向上の為に情報交換している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、実態調査の時に本人が入所後安心して頂けるよう十分な聞き取りを行っている。入所してからもより安心して頂けるようにコミュニケーションを取り、信頼関係を築いていける様努めている。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心して預けられるよう事前にお聞きした事を常に念頭に入れながら関わっている。また、月1回のお便りで様子をお知らせしている。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査の時、一番困っている事・望んでいる事をしっかり把握し、安心して過ごせるよう努めている。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護されているのではなく、共に生活する仲間として意識し、共同生活を楽しく過ごせるよう、上から目線ではなく、利用者の立場に立って過ごす様心がけている。			
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の大変さを考慮し、少しでも家族の思いに近づける様関わりを大切にして、本人を共に支えていけるよう努めている。			
20		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や友人が自由に面会できる様、又、こちらからも出向けるような関係づくりを支援し、声がけしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席の工夫でや職員が間に入り、関わりを持つ事で、入所者同士が仲良く楽しく過ごせる様支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、他の施設への入所相談や、今後の事で不安があれば、相談できる様支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いを少しでも多く把握し、楽しく過ごせる様、センター方式の主にC-1-2のシートを活用し、行動や思いの把握に努めている。	アセスメントから利用者の思いや意向を把握している、日常生活でその人らしく暮らせるように検討してほしい。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所後混乱が起きない様、家族・本人の会話の中から、今までの生活を少しづつ聞いて今後の生活に活かしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	なるべく一緒に過ごした中から現状の正しい把握に努めている。できる事を見つけ、今後の生活に役立てたり、心身に状況を正確に捉え、支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	初回は家族・本人の意向を十分配慮して作成している。毎月のカンファレンスで、出来るだけ正確な状況把握に努めているが、家族の面会時会話の中や、利用者の状況の変化により、スタッフ間で共有して作成している。	月1回のカンファレンスで利用者のひとり一人を確認している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にはまだまだ不十分などところがあるが、書式の検討を重ね、より明確で見やすいもので対応していきたい。又、申し送りノートを活用し、確実に共有でき、計画書の見直しに反映できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	友人・近所の商店・眼鏡屋・個人医院・床屋などなじみの資源を変わりなく利用し、環境の極端な変化が無いよう努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携と、受診報告書の活用で情報収集に努め、信頼関係を築けるよう努めている。	6名程は事業所の主治医の任診で9。その他はそれぞれのかかりつけ医に家族が同行している。家族が出来ない時は事業所で通院の支援をしている。受診報告書は家族には毎月報告している	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場には、看護師は配属されていないが、かかりつけ医の看護師との連携に努めている。相談できる関係が出来ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	状態が変化したら、かかりつけ医に相談し、速やかに安心して入院し、治療ができる様に努めている。入院中は、お見舞いに伺い、病棟看護師に様子を聞き状態把握に努めている。退院が決まったら、受け入れができるかどうか検討し、決まったら、サマリーを頂き今後のケアに支障のないよう情報収集に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に意向確認の署名捺印を頂き、家族と共有している。状態の変化により事業所の能力を超えた時は主治医と相談し、家族が困惑しない様配慮している。	「重度化した場合における対応」について入所時に家族に説明して同意書を頂いているが、現在の事業所は、医療行為が常時必要になった時は、事業所での生活は困難である事を明記している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修は全員受講しているが、毎年研修は行っていない。実際の事例から常にカンファレンス等で検討し、チェック機能を含めシミュレーションをして意識づけをしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を実施している。今年度より、災害対策委員会を立ち上げ、体制等を検討し、対応できるよう努めている。	年2回の消防訓練が実施されている。今回の東日本震災で事業所でも課題ができ、法人の防災委員会で再検討している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、利用者の立場に立ち尊敬の念で声かけ・対応をしている。決して人格を否定する様な対応をしない様努めている。	排泄時や介助時の職員の言葉づかいが一部職員が不相当であるとアンケートで指摘された。内部研修、OJTで指導が必要である。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、自分の考えが言えるような雰囲気作りに努め、反映できるよう働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員目線ではなく、利用者本位を優先し、行動・支援できる様、日々確認しながら支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服や化粧などその人にあったおしゃれを楽しんでできるように機会を設けて支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞き買い物に出かけたり、調理の下ごしらえ・味付け・盛り付け・片付けなどできる事をして頂き、生活感を持って頂いている。	職員が入居者に食べたい物を聞いて、献立を作り、買い物に行く、買い物、調理への参加者は一部の人である。が食事時に何かに全員が参加している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事は、量・バランス等を工夫しながら、個々の状態に合わせて工夫したり加減したりしている。又、尿量と水分の把握で、水分を摂ったり、夜間もペットボトルで水分補給をしたり配慮している。</p>			
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、全員が行っており、個々の能力に応じ、介助している。</p>			
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>日中は、全員トイレ誘導している。一人ひとりのパターンにあわせ介助も段階をつけ、できる事はして頂き支援している。</p>			
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>個々の排便コントロールを考え、食事量・水分量・尿量から分析し予想される原因を考え対応している。排泄チェック表を基に必要時下剤の調整をしている。</p>			
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴の時間・回数は個人の希望により調整している。職員の配置にもよるが、利用者の希望に出来るだけ対応している。</p>	<p>基本的には週2回であるが、毎日入浴できるように体制はできている。一日に4～5人が入浴している。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個人の生活リズムに合わせて、休み健康管理に気をつけるよう配慮している。</p>			
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬受け後仕分けをした時に朝・昼・夕・名前及び処方箋を必ず確認し、薬の変更があったら間違いなく対応できるよう努めている。食後は職員二人で利用者の名前を確認し、対応している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人ごと思考・趣味・経歴等を把握し、特技を活かした支援と楽しく機能訓練したり工夫している。			
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の公園や買い物へ出かけたり、春から秋は、バスハイクでドライブを楽しんだり、お盆は、家族と出かけられるよう声がけし、支援している。	車椅子の利用者も近くの公園に散歩したり、葡萄狩り、川西のダリア観賞を計画している。外食やお墓まいりは家族と一緒に出かけている。散歩は一部の入居者になっている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を持っていることは無く、家族から預かったお金は、事業所の金庫で保管し必要時家族に断って使っている。希望に応じ立替金で処理し使用している。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話をかけたたり、かけてもらったりして利用者の精神安定に努めている。			
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎、カレンダーや花を飾り環境整備に努めている。常に季節にあわせて空調には気を使っている。判断の難しい方には、衣服で調整して頂いている。	畳の利用、ソファの配置とそれぞれの居場所を作る工夫が見られる。テレビも集まってみて、話をしている。食事中も入居者の希望でテレビを付けているが、観ていないように思われた。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに畳をセッティングし、空間を楽しんだり、仲間同士一緒に過ごせるスペースを工夫し対応に配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの物品を持ち込む事で精神の安定に繋がったり、安心できる空間作りに努めている。	なじみの物が持ち込まれていて、その人らしい部屋作りがされている、安心して生活ができるように支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示やテーブルに名前を貼ることで安心して座れる。一連の動作がし易いよう工夫している。	/	/